

## 11 自然とのふれあいの場

### 11.1 調査

#### 1) 調査内容

調査内容を表 10.11.1-1 に示す。

表 10.11.1-1 調査内容

調査項目	
自然とのふれあいの場の資源状況、周辺環境の状況等	
自然とのふれあいの場の利用状況	
自然とのふれあいの場への交通手段の状況	
その他の予測・評価に必要な事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・周辺の土地利用</li><li>・周辺の交通網の状況</li></ul>

#### 2) 調査方法

##### (1) 既存資料調査

既存資料調査は、表 10.11.1-2 に示す資料について収集、整理した。

表 10.11.1-2 調査方法（既存資料調査）

調査事項	収集資料
自然とのふれあいの場の資源状況、周辺環境の状況等 自然とのふれあいの場の利用状況 自然とのふれあいの場への交通手段の状況	対象事業実施区域周辺における自然とのふれあいの活動の場の位置、種類、規模、状況、特性等、利用状況、周辺状況を地形図、観光ガイドブック等の既存資料により把握した。
その他の関連事項 ・周辺の土地利用 ・周辺の交通網の状況	現地踏査、地形図、土地利用現況図、住宅地図等の最新資料の収集等により把握した。

(2) 現地調査

現地調査は、表 10. 11. 1-3 に示す方法により実施した。

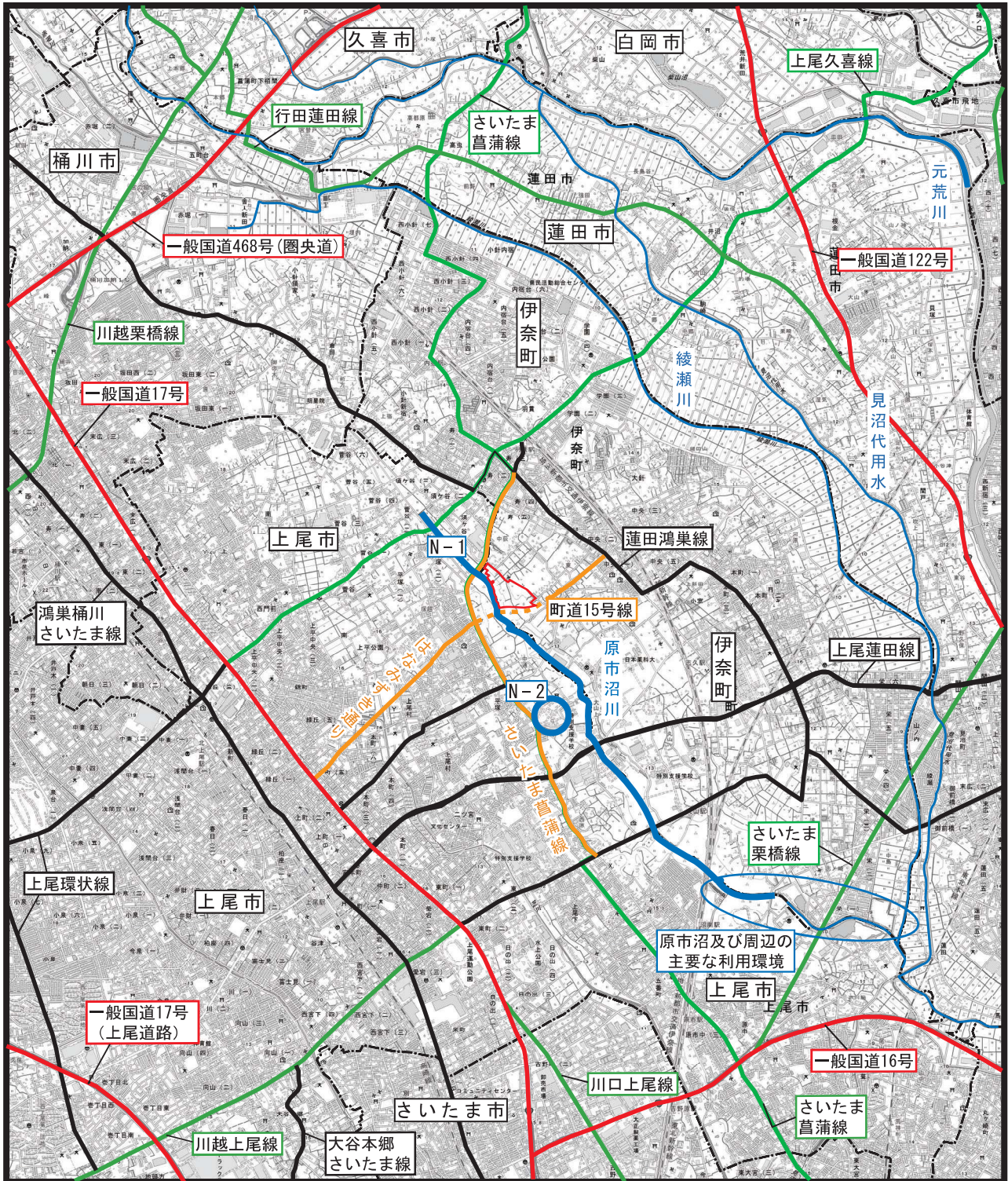
また、調査地点は表 10. 11. 1-4、図 10. 11. 1-1 に示すとおりである。

表 10. 11. 1-3 調査方法（現地調査）


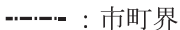


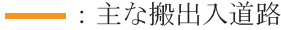

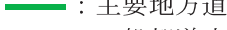

区分	調査項目	調査方法	調査年月日
自然とのふれあいの場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然とのふれあいの場の資源状況、周辺環境の状況等</li> <li>・自然とのふれあいの場の利用状況</li> <li>・自然とのふれあいの場への交通手段の状況</li> </ul>	現地調査及び利用者、管理者への聞き取りによる。	冬季：（平日）令和7年1月10日 （休日）令和7年1月11日 春季：（平日）令和7年4月23日 （休日）令和7年4月19日 夏季：（平日）令和7年7月17日 （休日）令和7年7月19日 秋季：（平日）令和7年10月30日 （休日）令和7年10月26日 （各季とも上記調査日のほかにも、適宜利用状況の把握に努めた。）

表 10. 11. 1-4 調査地点

区分	No.	調査対象地等	調査項目	選定理由等
自然とのふれあいの場	N-1	原市沼川	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然とのふれあいの場の資源状況、周辺環境の状況等</li> </ul>	対象事業実施区域の西側に接して、北西から南東に流れる河川であり、自然とのふれあいの場として選定した。
	N-2	平塚公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然とのふれあいの場の利用状況</li> <li>・自然とのふれあいの場への交通手段の状況</li> </ul>	対象事業実施区域への関係車両（資材運搬等の車両、ごみ収集車両等）の主要な走行経路になると想定されるさいたま菖蒲線に接していることから、自然とのふれあいの場として選定した。



凡例

-  : 対象事業実施区域
-  : 市町界
-  : 原市沼川調査区間
-  : 平塚公園
-  : 主な搬出入道路  
(破線部分は計画道路を示す。)
-  : 国道
-  : 主要地方道
-  : 一般都道府県・指定市の一般市道



S = 1:50,000



この地図は、国土地理院発行の電子地図2万5千分の1を使用したものである。

図10.11.1-1 自然とのふれあいの場  
調査対象地等

### 3) 調査結果

#### (1) 自然とのふれあいの場の資源状況等

##### ① 既存資料調査

自然とのふれあいの場の資源状況他に係る調査結果は、「第3章 地域特性、3.2 自然的状況、2.6 景観及び自然とのふれあいの場の状況、2) 自然とのふれあいの場 (p. 3-116～119)」に示すとおりである。

##### ② 現地調査

調査結果は、表 10.11.1-5～6 に示すとおりである。

表 10.11.1-5 調査結果 (N-1 原市沼川)

調査地点名		N-1 原市沼川			
自然とのふれあいの場の資源状況及び周辺環境の状況					
原市沼川は、対象事業実施区域の西側に接して、北西から南東に流れる準用河川である。 原市沼川沿いは散歩等が可能な範囲があり、下流には古代蓮が楽しめる原市沼がある。					
資源状況： 現地踏査、聞き取り調査によると釣り、ホテル観察、野鳥観察を楽しむ人たちがみられるとのことであった。 ただし、観光ガイドブック等で大きく取り上げられる例は見られず、日常の散歩など、地域住民の利用が主である。 主な利用環境は原市沼の周辺に集中しており、対象事業実施区域付近での利用はみられなかった。					
周辺環境： 原市沼川は農用地、宅地、事業所などの間を縫うように流れ、河岸へのアクセスが整備されている箇所は見られない。					
調査結果	【冬季】				
	区分	利用状況	主な交通手段		
	釣り	平日	みられなかった		徒歩
		休日	境橋周辺 利用者は多くない(1名程度)		
	散歩	平日	下の池調節池周辺 午前、午後に5~10名程度の利用あり		徒歩、 自転車
		休日	下の池調節池周辺 午前、午後に5~10名程度の利用あり		
	犬の散歩	平日	下の池調節池周辺 午前、午後に5名程度の利用あり		徒歩
		休日	下の池調節池周辺 午前、午後に5名程度の利用あり		
	野鳥観察	平日	みられなかった		徒歩
		休日	中の池調節池周辺 午前、午後に2名程度の利用あり		
	【春季】				
	区分	利用状況	主な交通手段		
	釣り	平日	古代蓮(原市沼)付近の管理釣り場では 5名程度の利用あり	徒歩、 自転車、 自家用車	
		休日	中の池調節池周辺は2名程度の利用、 古代蓮(原市沼)付近の管理釣り場では 10名程度の利用あり		
	ランニング	平日	下の池調節池周辺 午前、午後に2名程度の利用あり	徒歩	
		休日	下の池調節池周辺 午前、午後に3名程度の利用あり		
	散歩	平日	中の池調節池及び下の池調節池周辺等 午前、午後に3~5名程度の利用あり	徒歩	
		休日	中の池調節池及び下の池調節池周辺等 午前、午後に5~10名程度の利用あり		
	犬の散歩	平日	中の池調節池及び下の池調節池周辺等 午前、午後に3名程度の利用あり	徒歩	
		休日	中の池調節池及び下の池調節池周辺等 午前、午後に5名程度の利用あり		
	【夏季】				
	区分	利用状況	主な交通手段		
	釣り	平日	みられなかった	徒歩	
		休日	みられなかった		
	散歩	平日	みられなかった	徒歩	
		休日	下の池調節池周辺 午後に2名程度の利用あり		
	犬の散歩	平日	みられなかった	徒歩	
		休日	みられなかった		
野鳥観察	平日	みられなかった	徒歩		
	休日	みられなかった			
【秋季】					
区分	利用状況	主な交通手段			
釣り	平日	古代蓮(原市沼)付近の管理釣り場では 5名程度の利用あり	徒歩、 自転車、 自家用車		
	休日	古代蓮(原市沼)付近の管理釣り場では 10名程度の利用あり			
散歩	平日	中の池調節池及び下の池調節池周辺 1~3名程度の利用あり	徒歩、 自転車		
	休日	中の池調節池周辺 5名程度の利用あり			
犬の散歩	平日	みられなかった	徒歩		
	休日	みられなかった			
野鳥観察	平日	みられなかった	徒歩		
	休日	みられなかった			

表 10.11.1-6(1/2) 調査結果 (N-2 平塚公園)

調査地点名	N-2 平塚公園				
自然とのふれあいの場の資源状況及び周辺環境の状況					
平塚公園はスポーツ施設や自然を生かした散策路のある樹林など、子どもからからお年寄りまで1日を通して過ごせる公園であり、緑に囲まれた良好な環境を形成している。					
資源状況：	いこいの広場（芝生広場）、ちびっこ広場・わんぱく広場（スチール製遊具、木製アスレチック）、テニスコート（クレー3面）、水の広場（噴水、親水施設）				
周辺環境：	周辺には農用地、宅地、事業所が分布している。 交通手段：駐車場（34台）、市内循環バス「ぐるっとくん」、「平塚公園」で下車、徒歩1分 JR上尾駅東口から朝日バス伊奈町役場行き「西原」下車、徒歩5分				
調査結果	【冬季】				
	区分	利用状況	主な交通手段		
	いこいの広場	平日	利用者はみられなかった	徒歩、自転車、 自家用車	
		休日	バドミントンやキャッチボール、サッカー等のスポーツをするために利用していた（7名程度）		
	ちびっこ広場 わんぱく広場	平日	小学校終わりに利用していた（9名程度）	徒歩、 自家用車	
		休日	午前、午後5名程度の利用あり		
	テニスコート	平日	利用者数は多くない（2名程度）	自家用車	
		休日	利用者数は多くない（4名程度）		
	水の広場	平日	利用者はみられなかった	徒歩、 自家用車	
		休日	午前、午後5名程度の利用あり		
	ウォーキング	平日	午前、午後2名程度の利用あり	徒歩	
		休日	午前、午後3名程度の利用あり		
	犬の散歩	平日	午前、午後2名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車	
		休日	午前、午後3名程度の利用あり		
	その他	平日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた	自家用車	
		休日	利用者はみられなかった		
	【春季】				
	区分	利用状況	主な交通手段		
	いこいの広場	平日	グラウンド・ゴルフ等のスポーツをするために利用していた（7名程度）		徒歩、 自転車、 自家用車
		休日	ベンチや木陰でピクニックをしている人が多くみられた（10名程度）		
	ちびっこ広場 わんぱく広場	平日	午前、午後5～10名程度の利用あり		徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後10～30名程度の利用あり		
	テニスコート	平日	午後10名程度の利用あり		自家用車
		休日	午前、午後10～20名程度の利用あり		
水の広場	平日	利用者はみられなかった	徒歩、自家用車		
	休日	午前、午後5～10名程度の利用あり			
ウォーキング	平日	午前、午後5名程度の利用あり	徒歩		
	休日	午前、午後3～5名程度の利用あり			
犬の散歩	平日	午前、午後2名程度の利用あり	徒歩、自家用車		
	休日	午前、午後3～5名程度の利用あり			
その他	平日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた	自家用車		
	休日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた			
					

表 10.11.1-6(2/2) 調査結果 (N-2 平塚公園)

調査地点名	N-2 平塚公園			
自然とのふれあいの場の資源状況及び周辺環境の状況				
平塚公園はスポーツ施設や自然を生かした散策路のある樹林など、子どもからからお年寄りまで1日を通して過ごせる公園であり、緑にまつまれた良好な環境を形成している。				
資源状況：	いこいの広場（芝生広場）、ちびっこ広場・わんぱく広場（スチール製遊具、木製アスレチック）、テニスコート（クレ-3面）、水の広場（噴水、親水施設）			
周辺環境：	周辺には農用地、宅地、事業所が分布している。 交通手段：駐車場（34台）、市内循環バス「ぐるっとくん」、「平塚公園」で下車、徒歩1分 JR上尾駅東口から朝日バス伊奈町役場行き「西原」下車、徒歩5分			
調査結果	【夏季】			
	区分	利用状況	主な交通手段	
	いこいの広場	平日	午後に5名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に5名程度の利用あり	
	ちびっこ広場 わんぱく広場	平日	午後に5名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に5～10名程度の利用あり	
	テニスコート	平日	午後に5名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に5～10名程度の利用あり	
	水の広場	平日	午後に3名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に3～5名程度の利用あり	
	ウォーキング	平日	午後に3名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午後に3～5名程度の利用あり	
	犬の散歩	平日	午後に3名程度の利用あり	徒歩、 自家用車
		休日	午後に3～5名程度の利用あり	
	その他	平日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた	自家用車
		休日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた	
	【秋季】			
	区分	利用状況	主な交通手段	
	いこいの広場	平日	午前、午後に20～30名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に10～20名程度の利用あり	
	ちびっこ広場 わんぱく広場	平日	午前、午後に20～30名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に10～20名程度の利用あり	
	テニスコート	平日	午前、午後に10名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車
		休日	午前、午後に10～20名程度の利用あり	
水の広場	平日	午後に5名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車	
	休日	午前、午後に5～10名程度の利用あり		
ウォーキング	平日	午前、午後に5名程度の利用あり	徒歩、自転車、 自家用車	
	休日	午前、午後に5～10名程度の利用あり		
犬の散歩	平日	午前、午後に2名程度の利用あり	徒歩、 自家用車	
	休日	午前、午後に5名程度の利用あり		
その他	平日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた	自家用車	
	休日	トイレや休憩のため、駐車場を利用していた		



**(2) その他の予測・評価に必要な事項**

**① 周辺の土地利用**

土地利用の状況は、「第3章 地域特性の把握、1 社会的状況、1.2 土地利用の状況」(p. 3-4)に示すとおりである。

**② 周辺の交通網の状況**

周辺の交通網の状況の既存資料調査は、「第3章 地域特性の把握、1 社会的状況、1.4 交通の状況」(p. 3-10)に示すとおりである。

## 11.2 予測

### 1) 建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行

#### (1) 予測内容

工事実施時における自然とのふれあいの場の利用環境の改変の程度（改変等の有無及び利用環境の変化の程度、交通手段の阻害のおそれの有無）について予測した。

#### (2) 予測方法等

##### ① 予測方法

##### ア 建設機械の稼働（造成等の工事）に伴う利用環境の変化

自然とのふれあいの場における改変の有無及び現地調査結果の予測結果と事業計画の内容を重ね合わせるにより、自然とのふれあいの場の利用環境の変化の程度を把握し、定性的に予測した。

##### イ 交通手段の阻害の状況

資材運搬等の車両の走行ルートと自然とのふれあいの場への交通手段の状況を踏まえ、自然とのふれあいの場の交通手段の阻害のおそれの有無及びその程度について、工事計画の内容と現地調査結果を重ね合わせ、解析により予測した。

予測は「第10章 1. 大気質」において設定した交通量（p10. 1-57～59 参照）を用いる方法とし、各予測地点を全ての車両が通行するものと仮定した。

主な搬出入道路における交通量は表 10. 11. 2-1 に示すとおりである。

表 10. 11. 2-1 工事中の予測交通量

予測地点	区分	現況交通量 (台)	資材運搬等の車両 (台)			将来車両 (台)						
			小型車	大型車	合計							
A-1 対象事業実施区域内 (さいたま菖蒲線)	平日	11, 197	96	346	442	11, 639						
	休日	11, 619				12, 061						
A-7 さいたま菖蒲線	平日	11, 843				96	346	442	12, 285			
	休日	11, 967							12, 409			
A-8 はなみずき通り	平日	7, 522							96	346	442	7, 964
	休日	7, 307										7, 749

注：表中の交通量は、資材運搬等の車両（通勤車両も含む）が走行する6時～19時における断面交通量を示す。走行時間帯は以下のように想定する。

- ・資材運搬等車両：8時～17時
- ・工事関連の通勤車両：6～8時及び17～19時

注：資材運搬等の車両台数の設定について、工事期間中に走行台数が最も多い時期で各予測地点に全ての搬入・搬出車両が通行するものとした。

##### ② 予測地域及び予測地点

予測地域及び予測地点は、N-1 原市沼川については、利用が認められた原市沼及びその周辺（南東側約3km）とした。N-2 平塚公園については、現地調査地域・地点と同様とした（図 10. 11. 1-1 参照）。

##### ③ 予測時期等

建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行による影響が最大となる時期とした。

### (3) 予測結果

#### ア 建設機械の稼働（造成等の工事）に伴う利用環境の変化

本事業では、対象事業実施区域内においてのみ工事を実施するものであり、N-1 原市沼川や N-2 平塚公園を改変しないため、直接的な影響はないと予測される。

建設機械の稼働及び造成などの工事に伴う大気質、騒音、振動の予測結果によると、大気質、騒音、振動の影響は対象事業実施区域内とその近傍に留まり、対象事業実施区域から十分離れた位置に利用環境がある N-1 原市沼川（南東側約 3km）及び N-2 平塚公園（北側約 900m）では大気質等の環境の変化はほとんどないと予測される。

造成等の工事に伴う濁水の発生による原市沼川の水質への影響について、降雨時には現況と同程度の SS 濃度の濁水が発生するが、発生した濁水は沈砂池等で滞留させ、SS 濃度 180mg/L 以下として放流する計画であるため、現況から大きな変化はないと予測される。また、地下構造物工事施工時等のコンクリートにより発生するアルカリ性の濁水は、中和装置により pH5.8~8.6 に調整して放流するため、濁水による影響は小さいと予測される。

#### イ 自然とのふれあいの場への交通手段の阻害の状況

工事の実施に伴い、既存道路の通行規制は実施しない。資材運搬等の車両の走行による交通量の増加率は表 10.11.2-2 に示すとおりである。

N-1 原市沼川について、主要な利用環境（原市沼及びその周辺）は主な搬出入道路から離れていることから、資材運搬等の車両の走行による影響はほとんどないと予測される。

N-2 平塚公園は主な搬出入道路と利用者のアクセスルートが重なる県道さいたま菖蒲線に面している。さいたま菖蒲線の直近の地点である A-7 における交通量の増加率は、最も台数が多い時期で平日、休日共に 3.7%と予測される。

表 10.11.2-2 交通量増加率

予測地点	区分	増加率 (%)
A-1 対象事業実施区域内 (さいたま菖蒲線)	平日	3.9
	休日	3.8
A-7 さいたま菖蒲線	平日	3.7
	休日	3.7
A-8 はなみずき通り	平日	5.9
	休日	6.0

注：表中の増加割合は、資材運搬等の車両（通勤車両も含む）が走行する 6 時～19 時における割合を示す。走行時間帯は以下のように想定する。

- ・資材運搬等車両：8 時～17 時
- ・工事関連の通勤車両：6～8 時及び 17～19 時

注：資材運搬等の車両台数の設定について、工事期間中に走行台数が最も多い時期で各予測地点に全ての搬入・搬出車両が通行するものとした。

## 2) 施設の存在、施設の稼働及び自動車等の走行（ごみ収集車両等の走行）

### (1) 予測内容

施設の存在、施設の稼働及びごみ収集車両等の走行に伴う自然とのふれあいの場の利用環境の改変の程度について予測した。

### (2) 予測方法等

#### ① 予測方法

##### ア 施設の存在、施設の稼働に伴う利用環境の改変の程度

現地調査結果と施設の稼働による大気質等の予測結果を事業計画の内容と重ね合わせることに  
より、自然とのふれあいの場の利用環境の変化の程度を把握し、定性的に予測した。

##### イ 交通手段の阻害の状況

ごみ収集車両等の主な搬入搬出道路と自然とのふれあいの場への交通手段の状況を踏まえ、自然とのふれあいの場への交通手段の阻害のおそれの有無及びその程度について、事業計画の内容と現地調査結果を重ね合わせ、解析により予測した。

予測は「第 10 章 1. 大気質」において設定した交通量 (p10. 1-92~95 参照) を用いる方法とし、各予測地点を全ての車両が通行するものと仮定した。

主な搬入搬出道路における交通量は表 10. 11. 2-3 に示すとおりである。

表 10. 11. 2-3 存在・供用時の予測交通量

予測地点	区分	現況交通量 (台)	ごみ収集車両等 (台)			将来車両 (台)
			小型車	大型車	合計	
A-1 対象事業実施区域内 (さいたま菖蒲線)	平日	7,806	156	174	330	8,136
	休日	8,744				9,074
A-6 町道 15 号線	平日	3,034	312	348	660	3,694
	休日	3,379				4,039
A-7 さいたま菖蒲線	平日	8,073	312	348	660	8,733
	休日	8,928				9,588
A-8 はなみずき通り	平日	5,413	312	348	660	6,073
	休日	5,463				6,123

注：表中の交通量は、ごみ収集車両等が走行する 8 時～17 時における断面交通量を示す。

注：ごみ収集車両等台数の設定について、各予測地点に全ての搬入・搬出車両が通行するものとした。

#### ② 予測地域及び予測地点

予測地域及び予測地点は、N-1 原市沼川については、利用が認められた原市沼及びその周辺（南東側約 3km）とした。N-2 平塚公園については、現地調査地域・地点と同様とした（図 10. 11. 1-1 参照）。

#### ③ 予測時期等

施設の稼働が定常の状態となる時期とした。

### (3) 予測結果

#### ア 施設が存在及び施設の稼働による利用環境の変化の程度

施設の稼働による影響について、騒音、低周波音、振動の予測結果によると、それらの影響は対象事業実施区域内とその近傍に留まり、対象事業実施区域から十分離れた位置に利用環境があるN-1 原市沼川（南東側約3km）及びN-2 平塚公園（北側約900m）では騒音等による環境の変化はほとんどないと予測される。大気質及び悪臭の影響については、比較的遠方まで生じるものの、最大着地濃度出現地点の濃度等は現況を著しく悪化させるものでないと予測する。また、施設からの排水は下水道放流することから、原市沼川への影響はない。

施設が存在による影響について、景観の変化の影響が考えられるが、N-1 原市沼川（南東側約3km）は十分離れた位置であり、N-2 平塚公園は樹林に広く覆われていることから影響はほとんど無いと予測される。

よって、利用環境への影響は小さいと予測する。

#### イ 交通手段の阻害の状況

ごみ収集車両等の走行による周辺道路の交通量の増加率を表 10.11.2-1 に示す。

N-1 原市沼川の主要な利用環境（原市沼周辺）は主な搬出入道路から離れていることから、自動車等の走行による影響はほとんどないと予測される。

N-2 平塚公園は主な搬出入道路と利用者のアクセスルートが重なる県道さいたま菖蒲線に面している。さいたま菖蒲線の直近の地点であるA-7における交通量の増加率は、平日に8.2%、休日に7.4%と予測される。

表 10.11.2-4 交通量増加率

予測地点	区分	増加割合 (%)
A-1 対象事業実施区域内 (さいたま菖蒲線)	平日	4.2
	休日	3.8
A-6 町道15号線	平日	21.8
	休日	19.5
A-7 さいたま菖蒲線	平日	8.2
	休日	7.4
A-8 はなみずき通り	平日	12.2
	休日	12.1

注：表中の増加割合は、ごみ収集車両等が走行する8時～17時における割合を示す。

注：ごみ収集車両等台数の設定について、各予測地点に全ての搬入・搬出車両が通行するものとした。

### 11.3 評価

#### 1) 評価方法

評価は、自然とのふれあいの場への影響が事業者の実行可能な範囲で回避又は低減されているものであるか否について見解を明らかにすることによって行った。

環境保全目標は、「主要な自然とのふれあいの場の利用環境への影響が可能な限り低減されていること。」を前提とした。

#### 2) 環境の保全のための措置

自然とのふれあいの場への影響を低減させるため、環境の保全のための措置として以下の事項を実施する。

##### (1) 工事中

表 10.11.3-1 環境の保全のための措置（工事中）

影響要因	項目	措置の内容	措置の区分		
			予測条件として設定	低減に係る保全措置	その他の保全措置
建設機械の稼働造成等の工事	排ガス対策型、低騒音・低振動型建設機械の採用	・使用する建設機械は排ガス対策型、低騒音・低振動型建設機械を使用に努める。		○	
	建設機械の維持管理	・建設機械が所定の性能を発揮できるように建設機械の維持管理に努める。		○	
	アイドリングストップ	・建設機械はアイドリングストップを図るように運転手への指導を徹底する。		○	
資材運搬等の車両の走行	運行管理の徹底	・資材運搬等の車両が特定の日時・場所に集中しないよう計画的な運行管理に努める。		○	
	交通規則の遵守	・資材運搬等車両は、速度や積載量等の交通規則を遵守する。特に、周辺道路においては速度を十分に落として走行することとし、安全運転に努める。		○	
	車両台数の抑制	・工事関係者の通勤は相乗とすることにより通勤車両台数の抑制に努める。		○	

##### (2) 存在・供用時

表 10.11.3-2 環境の保全のための措置（存在・供用時）

影響要因	項目	措置の内容	措置の区分		
			予測条件として設定	低減に係る保全措置	その他の保全措置
施設の稼働	適切な運転管理	・施設の稼働に伴い発生する排出ガスは、「大気汚染防止法」、「ダイオキシン類対策特別措置法」及び「工場・事業場に係る窒素酸化物対策指導方針（埼玉県）」等に規定する規制基準を遵守するとともに、自主基準値を定め公害防止基準値とする。また、供用時はモニタリングを実施し、適正な運転・管理を行う。	○	○	○
		・騒音の発生源である機器や排水処理設備の日常点検等の実施により、設備の作動を良好な状態に保つ。	○	○	
ごみ収集車両等の走行	運行計画の策定	・ごみ収集車両等は、原則として、日曜日は走行せず、走行時間は午前8時から午後5時までの運行計画とする。	○	○	
	運行管理の徹底	・ごみ収集車両等が特定の日時・場所に集中しないよう計画的な運行管理に努める。		○	
	交通規則の遵守	・ごみ収集車両等は、速度や積載量等の交通規則を遵守する。特に、周辺道路においては速度を十分に落として走行することとし、安全運転に努める。		○	

### 3) 評価の結果

#### (1) 工事中

##### ① 建設機械の稼働（造成等の工事）及び資材運搬等の車両の走行

###### ア 回避・低減の観点

造成等の工事による影響について、自然とのふれあいの場を直接改変しないため、影響はなく、建設機械の稼働及び造成などの工事に伴う大気質、騒音、振動の影響は対象事業実施区域内とその近傍に留まり、環境の変化はほとんどないと予測される。工事により発生する濁水は沈砂池で滞留させる等適切な処理を実施した後に放流することから、自然とのふれあいの場に対する影響は低減される。

資材運搬等の車両の走行による交通手段の阻害の状況について、N-2 平塚公園における交通量は3.7%増加すると予測されたが、この予測条件は工事のピーク台数であり、すべての資材運搬等の車両が同じ経路を走行するという安全側の予測結果である。さらに、資材運搬等の車両が特定の日時・場所に集中しないよう計画的な運行管理に努める等の環境の保全のための措置を講じることにより、資材運搬等の車両の走行による影響を低減させる。

したがって、環境への影響は事業者の実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

#### (2) 存在・供用時

##### ① 施設の存在、施設の稼働及び自動車等（ごみ収集車両等）の走行

###### ア 回避・低減の観点

施設の稼働による影響について、騒音、低周波音、振動の予測結果によると、それらの影響は対象事業実施区域内とその近傍に留まり、大気質及び悪臭の影響については、現況を著しく悪化させるものでないと予測する。また、施設からの排水は下水道放流することから、原市沼川への影響はない。

施設の存在による影響について、景観の変化の影響が考えられるが、N-1 原市沼川（南東側約3km）は十分離れた位置であり、N-2 平塚公園は樹林に広く覆われていることから影響はほとんど無いと予測される。

ごみ収集車両等の車両の走行による交通手段の阻害の状況について、N-2 平塚公園では交通量は平日に8.2%、休日に7.4%増加すると予測されるが、この予測条件はすべてのごみ収集車両等が同じ経路を走行するという安全側の予測結果である。さらに、ごみ収集車両等が特定の日時・場所に集中しないよう計画的な運行管理に努める等の環境の保全のための措置を講じることにより、自動車等の車両の走行による影響を低減させる。

したがって、環境への影響は事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価する。